

瞑想？ 迷想？



こんにちは。お元気ですか？このところ新潟は一足飛びに冬がきたような日が数日続くことがあります。冷たい強風が吹き荒れ、凄まじい雷鳴が轟くこともしばしばで、家の中においても怖いくらいです。先日の夜も、ゴロゴロ鳴り出したなーと思っていたら、だんだん音と光の間が縮まってきた、近づいてきたなーと思ったその瞬間に「ピカッ！バリバリドツシヤーン！」これば相当近くに落ちたなーと思ったら、後日わかったのですが、やはり自宅から直線距離にして3百メートルあるかどうかのところに設置された電信柱に落ちたとのことでした。新潟は昔から冬に差し掛かった頃に雷が鳴ると「ああ今年も雪降ろしが鳴ったねー」と言うのですが、とてもそんな情緒のあるような代物じゃない。身の危険をひしひしと感じたのでした。さて話は変わりますが・・・

最近、友人が主催している瞑想会に参加し始めました。(宗教団体とは一切関係ないです)聞くところによると瞑想法は非常に沢山種類があるそうで、私が習っているのは素人でも比較的入りやすい瞑想法なのだそうです。その瞑想会は数名で、各々リラックスできる状態で座り、静かな音と共にリラックス効果のあるお香を焚いてスタートします。ところが常に体を動かしている日常、そんなに簡単に静の状態にはなりません。何となく落ち着かないまま5分たち・・・10分たち・・・次第に体のほうは動かないことに慣れてきますが今度は頭の中が落ち着かない。絶え間なくあれやこれやと考えが浮かんで文字通り頭の中をグルグル駆けめぐります。これでは瞑想どころか迷想

じゃないか！一体どうすりゃ「無の境地」とやらになれるんだ！そんなことを考えながら更に時は過ぎます。そうするうちに、徐々にですがグルグルめぐっていた考えが少し途切れ始め、落ち着き始めた頃には終了の知らせが・・・回数を重ねて行けばそのうちにちゃんと瞑想できるのかしら？と思いつつそれでもちよつとだけスッキリしたような気になって、会場を後にするのでした。

なかなか先の見通しが効かない中で、それでも判断をしていくには情報収集も大切ですが、直感も非常に大切になってくると思います。そうなる通常に緊張感の中だけにいると頭も体も疲れてしまい、直感も働かなくなっていく。そんな日常から少し離れ、「静」の時を持つことの大切さが解る気がするこの頃です。次回はもう少し早くグルグルめぐりから解放されるかしら・・・？

日本の野鳥シリーズ

ジョウビタキと新素材

技術営業部 佐藤 弘

本種は雌雄が相談して羽色を選んだのかと思うくらい、調和した色合いの小形ツグミだ。即ち雄の銀ねず・こげ茶・橙に合わせて、雌はやや控えめに薄茶・こげ茶・橙で、共に翼に紋服のような白斑がある。芝居なら「よっ、ご兩人」と大向こうから声が掛かりそうなくらいに渋くキメているから、花鳥画のいい題材だ。

専門用語でふしよと呼ぶ、すねと足首に見える部分に材質不明の足環を着けた雌を捕獲した事が二度ある。本種のふしよの太さは、つま楊枝を削って少し扁平にしたほどだ。環が何かに引っ掛かってもがいたら、骨折や脱臼それに外敵に襲われる心配があるので、タコ糸くらいの太さのその環を切り取った。なまくらなハサミは全く刃がたたず、解剖用のものでどうにか切った。環は未知の天然素材に見えたが、それきり忘れていた。

同様の経験をした探究心盛んな研究者が環の材質を調べたら、軽く燃り合わされた状態のクモの糸だったという。とはいえ、そこいらの巣がああ強度を持つ筈がない。ふと、地グモの巣を思い出した。最近は見なくなったが、地グモを捕えちょっと元気がないコサメビタキに与えて、快復後放鳥したことがある。万年筆のキャップを細くしたような袋状の巣は、柔軟ながら丈夫で、試みに指先で千切ろうとしてもビクともしなかった。

話変わって、炭素繊維製品が登場してどれくらい経つだろう。私は溪流竿をハゼ釣りの陸っぱりに使うが、20cmクラスの大型を抜きあげるのに重宝している。竹竿のしなりとそれに相反する反発力の感触を覚えているが、軽くて腕が疲れないことも含めて竹の良さを超えている。鉄よりはるかに強い抗張力を活かして、飛行機の翼などにも採用されているらしい。

だが、ものの本によればクモの糸の強度は炭素繊維と同等で、かつ重量はその三分の一しかないすぐれもの、とある。現在、山形県の企業が実用化に向けて開発中とのことだ。しかし、養蚕のように飼育下で糸をとるわけにもいかず、化学的に合成するらしい。こちらもその特性を発揮して、自動車の軽量化や医療分野など多方面の用途が考えられるという。

時代の最先端を行く技術開発の核になるものが、身の周りにあったことに驚く。そして、それが磨けば光る玉になると見抜く、技術者の眼力にただ感服する。

“ちょっと一息”

“今年の夏”



No.14

技術営業部 副部長 山本知男

今年は暑かったり、大雨だったりで異常気象を感じた夏でしたが、その夏時にちょうど1ヶ月間京都に出張してました。

今年は出張が多い年ですが、さすがに1か月間は長かったです。この時期京都は祇園祭りの真っ最中で、ちょっと見てみたい気もあったのですが、休日も仕事していたので、夜遊びに行く元気もなく結局は行きませんでした。京都の人達は「祭り言うたかて人混み見るだけで、しょうもない。行かん方がええで。」と言っていました。何十万もの人に来るんだから、やっぱり見ておくべきだったかなと、ちょっぴり後悔した次第です。

さて京都に1ヶ月居たその間、晩酌ではずっと京都のお酒を呑んでました。仕事先の蔵元さんからお酒を頂いたものから、そこのお酒を中心に、あとは居酒屋で京都の酒を呑んでました。出張に行った楽しみと言えば、その土地のお酒を堪能出来ることで、これはやっぱりこの仕事をやるからこそその楽しみかと思えます。新潟の淡麗辛口に慣れ親しんだ私の舌ですが、京都のお酒の旨味、味わいもまた格別でした。京の薄味の料理にうまくマッチして毎日しあわせを感じてました。祇園祭りは見に行けなかったけれど、その分毎日京都のお酒をたっぷり頂いて、何せストッパー役の奥様が居ないので、それこそ一人でおまつり騒ぎしていた次第です。

出張先での仕事は地元の方々の協力を得て何とか進んで行けるものですが、今回も京都の蔵元さん、工事関係者の皆さんに良くして頂き、スムーズに仕事が進みました。

本当にいろいろとありがとうございました。

暑い京都で酒と人情を十分堪能させて頂きました。



◆ ちょっと豆知識 ◆ その21 「4-VG その②」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)



以前小欄で扱った4-VGに関する記事の「その後」です。

各種文献を調べると、環境中の殺菌剤としてはホルムアルデヒド（ホルマリン）が最も効果があるようですが、平成19年の法改正を契機にホルマリン燻蒸を取りやめる企業が相次ぎました。清酒の異臭等が大きく喧伝されるようになってきたのがその時期と符合するように感じるのは気のせいでしょうか。

現在私どもは、ある論文によるとホルマリンに次ぐ殺菌性を有するとされる「過酢酸」を、麹室の殺菌に適用出来ないか検証を進めています。

当社の会議室を麹室に見たて、Bacillusの胞子を濾紙に含浸させたものを複数、一定間隔で室内に配置。そこに所定の濃度に調製した過酢酸を、液体を極微細なミストにする特殊な装置で噴霧し、一定時間ごとに濾紙を回収。専用の培地で培養し、菌の生育の有無から薬剤がどれくらいの時間でどこまで到達しているか、などを調べています。

今のところ、吟醸用の小さな室程度の広さであれば、3時間程度の噴霧で十分な殺菌が出来るというデータを得ました。

また、薬剤の拡散に空間中の遮蔽物が大きく影響することも分かりましたが、サーキュレーターや扇風機の使用により、それらの影響を排除できそうだという知見も得られつつありますし、通常の使用濃度域ではステンレス、銅、アルミ、真鍮に対して腐食性を示さないことも確認しました。

唯一問題があるとすれば、わずかに残存する「酢酸臭」でしょうか。

医薬品や医療機器の製造ラインで殺菌に使用される薬剤ですので安全性や残存性に問題はないであろうと考えていますが、こればかりは酒造りの現場での検証を経る必要があります。現在、検証にご協力いただけるモニターを募集しています。ご興味のある酒類メーカー様がおられましたら、どうぞお声掛け下さい。

発車メロディ

エッセイ

生産部 島貴 修一

福島駅の改札口から在来線ホームを眺めていたら、聞き覚えあるメロディが流れて来た。頭の中に歌詞が浮かび、汽車の窓から～・・・「高原列車が行く」ではないか。新潟市に帰ってきてからインターネットで調べたら、福島駅では発車メロディとして在来線に「高原列車が行く」、新幹線に「栄冠は君に輝く」を流していることを知った。

発車メロディは東京の多くの駅が流しているが、チャイムを曲にしたようなものが普通で、機械的というか早く乗れと急かされている感じがする。それに対して高田馬場駅「鉄腕アトム」と駒込駅「さくらさくら」と福島駅のように、歌詞が浮かんでくるメロディは、温かみがあり緊張感を解いてくれる。発車メロディも駅の個性を表現する手段のひとつではないかと思うので、このことを大きな声で新潟駅に言いたい。

新潟駅は発車ベルだけで、発車メロディの音も計画も聞いたことがない。今は在来線も新幹線も全線高架のホームにする大工事中で、駅ビルと駅周辺の再開発もあり、発車メロディどころではない。だから工事が終わり新駅の使用を始める時に合わせて、発車メロディも流して欲しい。工事完了は2020年代（長くて15年後）という遠い未来だけど。

もうひとつ問題があった。「高原列車が行く」のモデルは福島県の沼尻鉄道、「栄冠は君に輝く」の作曲者の古閑裕而は福島市出身と、どちらも福島と関係のある曲だ。高田馬場駅と駒込駅も同様に地元と縁のある名曲。ところがだ、新潟と関係の深い名曲なんてあったかな。新潟出身の有名な作詞家・作曲家って誰かいるかな。

うーん大問題だ。

